

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																							
群馬県美容専門学校		昭和56年2月28日		住谷 知彦		〒371-0006 群馬県前橋市石関町136-1 (電話) 027-230-2266																							
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																							
学校法人群馬県美容学園		平成9年3月27日		理事長 松本一郎		〒371-0006 群馬県前橋市石関町136-1 (電話) 027-230-2266																							
分野	認定課程名	認定学科名				専門士	高度専門士																						
衛生	美容専門課程	サスーン スクールシップ ヘアスタイリスト学科				平成31年文部科学省 告示第3号	—																						
学科の目的	美容師国家試験対策はもちろんのこと、本学科はサスーンスクールシップ教育プログラムを基にサスーンabcカット・カラーリング・フットシューティング等先進的技術の習得に特化している。また、サスーンアカデミー・ロンドン本校への短期留学も行うことで世界トップクラスの技術を生で学ぶこともできる。サスーンの理論と実技をバランスよく学ぶことで、卒業時にはジュニアスタイリストレベルのテクニック習得を目指し、国内外で活躍できるスタイリストの育成を行う。																												
認定年月日	令和2年3月25日																												
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																						
2年	昼間	2010	600		1410		時間																						
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																								
40人	18人	0人	8人	7人	15人																								
学期制度	■前期: 4月1日から9月30日 ■後期: 10月1日から3月31日				成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 各学期末に行う試験、実習の成果、レポートの内容・提出状況、受講態度等を総合的に勘案する。																							
長期休み	■学年始め: 4月3日 ■夏季: 7月30日から8月31日 ■冬季: 12月24日から1月4日 ■学年末: 3月5日から3月29日				卒業・進級条件	進級: 1年次に定められた授業科目を履修し、単位を取得したもの。また、納入すべき授業料その他の金額をすべて納入しているもの。 卒業: 2年以上在学し、定める授業科目を履修し、67単位を修得したもの。また、納入すべき授業料その他の金額をすべて納入しているもの。																							
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 個人面談、三者面談を行い、欠席理由等を把し、解決策を見出すべく努めている。				課外活動	■課外活動の種類 自治会活動(学園祭・レクリエーション等)、祭りや福祉施設等でのボランティア活動 ■サークル活動: 無																							
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(令和元年度卒業生) 美容室 ■就職指導内容 就職ガイダンスの実施、学生面談、進路相談、履歴書連作指導、求人情報の管理・提供及び2次試験(面接)に関するアドバイスをを行っている。 ■卒業生数: 10人 ■就職希望者数: 10人 ■就職者数: 10人 ■就職率: 100% ■卒業者に占める就職者の割合: 100% ■その他: (令和1年度卒業生に関する 令和2年5月1日時点の情報)				主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和元年度卒業生に関する令和2年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>美容師免許</td> <td>②</td> <td>10人</td> <td>10人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 サスーンスクールシップスチューデントヘアカットコンテスト6位入賞				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	美容師免許	②	10人	10人												
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																										
美容師免許	②	10人	10人																										
中途退学の現状	■中途退学者: 0名 平成31年4月1日時点において、在学者19名(平成31年4月1日入学者を含む) 令和2年3月31日時点において、在学者19名(令和2年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由: ■中退防止・中退者支援のための取組 担任による個人面談を定期的に行い、学生1人1人の状況把握。				■中退率: 0%																								
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 入学金免除制度・・・本学園に入学する者で、本学園の定めた条件を満たした者の入学金を全額または半額免除する制度。 ファミリー紹介制度・・・本学園に入学する者で、本人の両親または兄弟・姉妹に本学園専門課程の卒業生、あるいは在学生がいる者について1年次授業料を減額する制度。 学生支援制度・・・遠隔地より通学する者や通学が困難で1人暮らしをする者に対し、新幹線通学支援や家賃支援を行う制度。 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象																												
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無																												
当該学科のホームページURL	URL: http://www.gunbi.ac.jp/top.html																												

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

企業等との連携を図り、美容業界の動向やニーズ、現場で必要な知識や技術等をヒヤリングし分析した上で、本校の授業内容や方法の改善を行い、より専門性の高い教育を提供し、美容業界で活躍する人材の育成に努める

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程編成委員会は学校法人群馬県美容学園教職員と企業関係者等の外部委員からなり、たがいの意見を十分に活かし、より良い教育課程の編成を協力して行うものと位置づける。また、意思決定の過程は以下の通りである。

【1:次年度の教育課程編成(方針やカリキュラムの決定)】

企業関係者等の外部委員より、専攻分野に関する業界の動向をヒヤリングし、委員会で協議、次年度の教育課程編成の基本方針を決める。その方針を基に前年度の課題をふまえたカリキュラム等を決定し、教育課程の骨組みを完成させる。

その後、委員会構成員の本学園教職員によって、外部役員から集約した改善意見等を反映しつつカリキュラム等の詳細を決定する。

【2:当年度の教育課程編成の実績を検証、課題等抽出】

委員会構成員である学園職員により、在校生・担当講師からの意見・広報状況等の情報を収集し、委員会にて企業関係者等の外部役員へ開示する。そのうえで、現時点での問題点・改善点等を検証し、次年度へ向けた改善の基本方針を定める。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和2年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
湯澤 章	群馬県美容用品商業協同組合 理事長	H30.4.1～R3.3.31	①
宮上 修	タカラベルモント株式会社北関東理美容営業所 所長	H30.4.1～R3.3.31	③
今井 孝	タカラベルモント株式会社キーアカウント営業部 部長	H30.4.1～R3.3.31	③
亀和田 英靖	株式会社アリミノ 美容教育部 副部長	H31.1.1～R3.3.31	③
住谷 知彦	群馬県美容専門学校 学校長	H31.1.1～R3.3.31	
高橋 憲一	群馬県美容専門学校 事務局長	H30.4.1～R3.3.31	
小田部 高幸	群馬県美容専門学校 広報キャリア部長	H30.4.1～R3.3.31	
黒田 奈々	群馬県美容専門学校 教務部長	H30.4.1～R3.3.31	
田上 聖晃	群馬県美容専門学校 教務部長代理	H30.4.1～R3.3.31	
長根 みちお	群馬県美容専門学校 教務課長	H30.4.1～R3.3.31	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

開催頻度・・・年2回開催 (年度をまたいで、第1回を2月頃開催し、第2回を7～8月頃開催している。)

(開催日時)

令和元年度 第2回 令和元年7月25日(木) 13:30～14:30

令和2年度 第1回 令和2年2月26日(水) 13:00～14:00

令和2年度 第2回 令和2年8月7日(金) 15:00～ ※新型コロナウイルス感染症対策の為、延期(11月頃の開催予定)

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

美容室ではカラーリング人気が続いており、業界全体で技術力アップに取り組んでいるという意見があり、「トータルビューティー」では、カラーリング実習をカリキュラムに反映した。塗布の正確性やスピードを競うコンテストも開催し、技術力アップを目指した。また薬液知識が必要という意見もあり、毛束を使った発色実験や薬剤成分、毛髪の基礎知識などの授業も行っている。相モデル実習を積極的に行い、さまざまな髪質に触れる機会を増やしていく。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

企業等との連携による実習・演習等により、職業意識や職業観を高め、講義で得た知識や実技授業で得た技術を向上させ、現場の方の指導を得ながら更なる技術等の向上を図り、美容業界で活躍できる人材を育成すること。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

【群馬県美容業生活衛生同業組合 実務実習】

1年次の冬期休業中に5日間、2年次の夏期休業中に5日間指定された美容室に実務実習を行う。その間の出席状況や評価は実習終了後、実習先から報告してもらい、学生指導に反映させています。

【一生美容に恋する会 アクティブラーニング(就職セミナー)】

美容業界における実体験やアドバイス等を教授して頂き、夢実現へのモチベーション向上や目指す進路の確立、継続的な自己成長につなげる。また、就職活動及び社会人として必要なビジネスマナーやプレゼンテーション能力、伝達力についても連携で評価を行う。

(3) 具体的な連携の例

科目名	科目概要	連携企業等
美容実習 (実務実習)	1年次に5日間、2年次に5日間の実習として、実際の美容室の現場を体験し、美容室の店主様の指導の下、技術の向上や職業に対する意識等を直接学ぶことで卒業後現場で卒戦力になる人材育成を目指す。	群馬県美容業生活衛生同業組合
トータルビューティ (アクティブラーニング)	美容の職業について現場経験者の体験を基に具体的・実践的に教授してもらい、美容の仕事についての理解を深め、夢実現へのモチベーション向上や目指す進路の確立、継続的な自己成長につなげる。また、グループワークを行い美容業界に必要な就職活動のビジネスマナー・接客技術・自己表現についてのプレゼンテーション能力を向上させることを目的とし、ロールプレイング等実際に体験しながら学び、将来美容のプロになる為の知識や技能を身につける。	一般社団法人 一生美容に恋する会

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

学校法人群馬県美容学園教職員研修規程に基づき、教職員に対して、現在ついている職または将来就くことが予想される職に係わる職務の遂行に必要な知識または技能等をあらかじめ策定した研修計画に基づき受講・修得させ、指導能力及び資質等の向上を図ることを目的とする。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「美容師実技試験委員養成研修会」(連携企業等： 理容師美容師試験研修センター)

期間：令和元年7月16日(火) 対象：美容実習指導者1名参加

研修内容：美容師国家試験実技試験の事前研修

企業等との連携内容：実技試験を円滑に行うための事前確認や課題作成等を主催団体より教授いただき、実務に反映させる。

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「 関東地区理容師美容師養成施設教職員研修協議会 」(連携企業等： 関東地区理容師美容師養成施設協議会)

期間：令和元年10月4日(金)～5日(土) 対象：美容実習・美容技術理論指導者1名参加

研修内容：まつ毛エクステンションについておよびグループディスカッション

企業との連携内容：国試における実技指導能力の向上を図るため、主催団体よりグループディスカッション形式の研修を受け、学生指導へ反映させる。

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「SBS着付指導講師研修会」(連携企業等: 全日本美容業生活衛生同業組合連合会)

期間: 令和2年8月20日(木) 対象: SBS着付指導教員1名

内容: SBS着付検定指導方法の確認及び統一のための技術研修

企業との連携内容: SBS着付検定試験に向けた指導のための着付技術を主催団体より教授いただき、実務に反映させる。

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「教員研修会」(連携企業等: 群馬県専修学校連合会)

期間: 令和2年12月 対象: 学生指導教員1名

内容: 未定

企業との連携内容: 学生指導におけるコミュニケーション能力の向上を図るうえで必要な知識等を研修を通じて教授いただき、学生指導に反映させる。

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校評価ガイドラインの項目に基づいて、学校教育活動等の総合的な状況について、学校関係者評価委員が基準を満たしているかどうかの判断を中心とした評価を実施する。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	理念、目的、育成人材像、特色ある教育活動、将来構想
(2) 学校運営	運営方針、事業計画、運営組織、人事・給与制度、情報システム
(3) 教育活動	目標設定、教育方法・評価等、成績評価・単位認定等、教員・教員組織
(4) 学修成果	育成人材像に沿った成果が上げられているか、卒業生の社会的評価
(5) 学生支援	就職等進路、学生相談、学生生活、保護者との連携、卒業生への支援
(6) 教育環境	施設設備等、学内外実習・インターンシップ等、防災・安全管理
(7) 学生の受入れ募集	学生募集活動、入学選考、学納金
(8) 財務	財務基盤、予算・収支計画、監査、財務情報の公開
(9) 法令等の遵守	関係法令、設置基準等の遵守、個人情報保護、学校評価、教育情報の公開
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献、ボランティア活動
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校全体での国家試験や検定における合格率低下状態において、細かい対策が必要とされる。原因の追究や、問題を検証し、学校間・教員間での報告・連絡・相談等を徹底していく。習得レベルが低い学生に対しては、放課後や個別指導など、授業時間以外を使用し、できる限りのサポートを行う。今後は各学科の特徴に合わせて、検定内容や受験に関して選する必要がある。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和2年7月1日現在

名前	所属	任期	種別
山形 正喜	関東地区埋容師美容師養成施設協議会 会長	H30.4.1～R3.3.31(3年)	企業等委員
宮上 修	タカラベルモント(株)北関東理美容営業所 所長	H30.4.1～R3.3.31(3年)	企業等委員
小泉 清司	株式会社ライフシステム 専務取締役	R2.7.1～R3.3.31(1年)	企業等委員
新井 博	新井博法律事務所 弁護士	H30.4.1～R3.3.31(3年)	企業等委員
富岡 政明	(有)富岡労務管理事務所 代表取締役	H30.4.1～R3.3.31(3年)	企業等委員
高崎 利成	一般社団法人 日本音響家協会	H31.4.1～R3.3.31(2年)	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生、校長等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期
(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他() ()
URL:

公表時期: 令和元9月(今後毎年9月頃更新予定)
ホームページURL: http://www.gunbi.ac.jp/pdf/gunbi_information_disclosure.pdf

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業等と連携・協力を推進する為に、学校の情報を提供し、企業との信頼関係をより深めるとともに、企業からの助言・指導を学校運営に取り入れ更なる学校発展を目指す。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	建学の精神、教育目標、校訓、沿革、
(2) 各学科等の教育	入学者数、総定員数、在学人数、カリキュラム、進級卒業要件、取得
(3) 教職員	教職員数
(4) キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育への取組み、企業との実習等の取組、就職支援
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校行事への取組み、課外活動状況
(6) 学生の生活支援	学生支援の取組状況
(7) 学生納付金・修学支援	学生納付金の取扱、修学支援の内容
(8) 学校の財務	収支計算書、貸借対照表
(9) 学校評価	自己点検・評価、学校関係者評価報告
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他() ()
http://www.gunbi.ac.jp/pdf/gunbi_information_disclosure.pdf

授業科目等の概要

(美容専門課程サスーン スクールシップ ヘアスタイリスト学科) 令和2年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			関係法規・制度	美容師の業務に関係する法律や制度について学ぶ。	1通・2通	30	1	○			○			○	
○			衛生管理	【公衆衛生】美容所における公衆衛生、環境衛生について学ぶ。 【管理技術】美容所における消毒方法の種類、原理、特徴や消毒器具の適正な操作方を学ぶ。 【感染症】感染症に関する知識と予防対策や衛生措置について学ぶ。	1通・2通	90	3	○			○				○
○			保健	【皮膚科学】毛髪や皮膚付属機関の保健衛生や疾患などの知識を学ぶ。 【生理解剖学】人体の構造と機能に関する基本的な知識を学ぶ。	1通・2通	90	3	○			○				○
○			香粧品化学	【物理】物理の基本原理や美容器具の構造、材質、機能、操作方法などを学ぶ。 【化学】美容で使用する化学薬品に関する構造や性質についての化学的知識を学びます。 【香粧品】香粧品の科学的性質を理解し正しく私用するための正確な知識を学ぶ。	1通・2通	60	2	○			○				○
○			文化論	美容ファッションやデザインを総合的に学び、芸術的な表現力や鑑賞力を身につける。	1通・2通	60	2	○			○			○	
○			美容技術理論	美容器具の取り扱いや、美容技術に関する様々な知識を学ぶ。	1通・2通	150	5	○			○			○	
○			運営管理	【ビジネス能力検定】ビジネス上の基本知識を習得し、即戦力になることを身につける。 【ホスピタリティ】ホスピタリティ（おもてなしの心）について学びます。	1通・2通	30	1	○			○			○	○

○		美容実習	【国家試験課題】ワインディング・セッティング・カットの技術を習得。 【サスーン教育プログラム】カット技術やブロードライ技術、カラーリング理論等を学びます。 【実務実習】美容室にて現場実習を体験する	1通・2通	900	30	△		○	○	○	○	○
○		トータルビューティ	【アクティブラーニング】企業と連携をし、現場の方々からの教授により、職業意識や職業観を高めることや就職活動を行ううえで必要な、社会人としてのビジネスマナー等を学ぶ。 【コース授業】ヘアアレンジやメイクアップを中心にさらなるテクニックを学ぶ	1通	120	4	△		○	○		○	○
○		色彩	3色の絵の具を使用し色相環を作成し、色料の原理を学び、ヘアカラーなどに活用させる。	1通	30	1	△		○	○		○	
○		デッサン	顔のプロポーション、立体、基礎バランスを理解し、ヘアスタイル・メーキャップ創作力を身につける	2通	30	1	△		○	○			○
○		コース	実際のサロンワークを意識したカット＆ブロー・カラーリングを中心に学ぶ。相モデル実習を行いより実践的な技術を習得する。	1通・2通	210	7	△		○	○		○	○
○		受験対策実技	国家試験（実技試験）の対策として個人の能力に応じたクラス分けを行うことで、未習熟な部分を発見させ、技術の向上をはかる。衛生分野における対策を繰り返し行い国家試験合格につなげる。	2通	150	5			○	○		○	
○		受験対策筆記	国家試験（筆記試験）の対策として個人の能力に応じたクラス分けを行うことで、学習の習熟度に合わせた授業を行う。模擬テストを繰り返し行うことで問題の理解を高める。	2通	60	2	○			○		○	
合計				14科目	2010単位時間(67単位)								

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
2年以上在学し、定める授業科目を履修し、67単位を習得したもの		1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	21週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。